NEWS LETTER

2022
冬季号
VOL.13

Contents

・会長挨拶
・「小村さんの英語力」　副会長　郡司　聡視
・「小村寿太郎侯についての想い」　幹　事　林　恵子
・新刊紹介　中西　輝政 著
・「小村さんと日清戦争、朝鮮（李朝）との関係」　監　事　石﨑　國雄
・当奉賛会の社団化について　監　事　石﨑　國雄

ごあいさつ

小村寿太郎侯東京奉賛会の昨今の動向について

小村寿太郎侯東京奉賛会
会長　下　芝　直　樹

世の中は、コロナ禍の下、殆どのイベントが開催中止止むなしとなり、私達のリアル総会も３回流れ、止む無く紙上開催となりました。

この間、何もしなかったかというとそういうわけでもなく、青山霊園には１月を除く奇数月の最終日曜日に、コロナ対策に配慮しつつ有志で清掃・参拝を続けました。幹事会は毎月開き、紙上総会で決議頂いた線に沿って真剣な議論を重ねて節目には役員会をセットして着々と事業の進捗に努めて参りました。

具体的には、最大のものとして、現在法人格のない当会を法人化することがあります。2012年（平成24年）12月12日発足以来、来月で区切りの10周年を迎えるのを機に、非営利型の一般社団法人へ脱皮し、社会的認知度を高めていきます。目下、石﨑國雄監事を中心として定款作成のため税務署、司法書士との協議を繰り返しており、12月１日の設立を目指しています。

次に、当会の目的にも掲げている「人材育成」の一環として、海外へのホームステイ事業を推進しています。会員の篤志家に絶大なご支援を賜ったお陰で、日南市と連携して若い生徒達がポーツマスに２週間程度留学できるように、来年夏の実施に向けて準備をしています。

また、ホームページについて、以前にも立ち上げましたが、会員からの投稿もなく、運用がうまく行かなかったので、反省を踏まえたうえで、上記の動きにも呼応して改めて開設することにし、近々「WEBサイト業務委託契約書」を締結することになります。

なお、当会のネーミングについては、候補に挙がったものを会員に投票して頂いたところ、120名中52名の回答がありましたが、①小村寿太郎に学ぶ会12名 ②小村寿太郎研究会11名　③小村寿太郎顕彰会10名と票が分かれたため改定するに至らず、当面現行のままとして、今後再考することにしました。

更に、中西輝政先生による講演会は、11月12日（土）砂防会館で開催すべく予約済みでしたが、未だ収束しないコロナ感染状況からお客様の安全第一を考慮して中止することとしました。

以上、表題について整理致しました。

唐突ですが、最近ＮＨＫテレビで放映された、川端康成の親友・横光利一への弔辞の最後に「僕は日本の山河を魂として君の後を生きてゆく。」という言葉があることを視聴した時、はっとしました。小村寿太郎こそ「日本の山河を魂として」その生涯を貫いたと言えるのではないか、と。

Column

小村さんの英語力

副会長　郡司　聡視

コロナ禍の真っ只中だった2020年。東京オリンピックさえ延期を余儀なくされたこの年、小学校からの英語教育が必修になった。小学３年から６年の４年間、教科書を用いて授業が行われる。小中高大と進学すれば14年の間、英語を学ぶ事となる。

果たして、それで若者が英語を習得出来るのだろうか？

60～70才代のシニア層に「もう一度学びたい教科」を尋ねると、常に英語科が第一位になるらしい。今やインターネットを通して、何でも情報が、動画が瞬時に入手出来る時代。地球の裏側の人とでもリモートで対話出来るし、同時通訳アプリを使えば何とか通じる。ならばネットを最大限に活用する若者が英語を学ぶ事を続けれるだろうか？今迄の英語教育のようにテストの為だけの英語、繰返し覚える事だけを強いる苦痛な教科から脱皮出来るのだろうか？

小村さんは小倉処平の勧めで、藩命を受けて明治2(1869)年２月13日、13歳で飫肥から長崎に洋学、特に英語を学ぶ為に赴いた。英語を学ぶ為に、当時は外国人から直接教わるしかなかった。フルベッキに英語を師事するつもりが、維新政府に招かれて東京に行った後で長崎にはいなかった。所が小村さんは「英語独り歩き案内書」を購入して、外国人居留地の大浦に出かけ、外国人に会話を求めて独学に励んでいる。正に実践英語学習だ。他に二人が小村さんと長崎に来た学友もいたはずだが、一緒に学んだ記録は無い。既に、何としても英語を自分の物にしようという決意、覚悟が読み取れる。

約１ヶ月半長崎で過ごした後に船で上京。フルベッキを追った。目指した学校は後々東京大学となる「大学南校」だが、既に薩長等の雄藩出身者で占められ定員に達していて入学を許されなかった。そこで小倉処平と米沢藩の平田東助とが教育機会の不平等を訴え、「貢進生制度」を提案し、晴れて小村さんも入学を果たせた。尚、貢進制制度の建白は飫肥藩単独のものとなっている。（戊辰戦争の影響と思われる）

飫肥で秀才と言われた小村さんは、日本中から選りすぐりの英才が集まった大学南校でも常にトップの成績だった。フルベッキ、ハウス、グリフィスの３人の先生から英語を学んだ。明治７年（1874年）のグリフィスの授業の課題として英作文、「My Autobiography（私の自叙伝）」を書いた。５枚のA4判用紙の表裏に、黒インクで、びっしりと筆記体で描かれている。ここではその内容の評価はしないが、英語の綴り、句読点、文法の正確さは完璧である。この時18歳半ば。和英辞典も教科書も無く、日本語が通じない教師から英語を学んでいる事を忘れてしまいそうになる程だ。英語と出会ってわずか５年で書いたとは信じられない。小村さん直筆のこの英作文は、米国ニュージャージー州にあるラトガース大学にて保存されているのを発見された。1997年２月15日に宮崎日日新聞にスクープされる形で大見出しとなり報道され、皆が知ることになった経緯がある。里帰り展示もされ、現地から専門家も招いて懇談会も催された。　小村さんの直筆の文章は少なく極めて貴重な発見だが、発見者は飫肥出身の槐島（げじま）光彬さん。小村さんの英作文を同郷の飫肥の人が見付け出すとは、偶然の一言では片付けられない思いがしてならない。小村さんに呼ばれた様に思えて、どうしても唸ってしまう。

明治8(1875)年には「もはや大抵の書物も読め、また外国人の話を聴いても凡そ理解が出来る様になった」と小村さん自身が語っている。

小村さんは同年に、米国ハーバード大学に文部省になって初めての国費留学生となり入学を果たした。法学部にて法律を学んだ。実は、同校に入学した日本人は先に旧幕臣のエリート、目賀田種太郎がいたが（明治５年）、英語力の不足から予科に入らされ、その後に入学を認められている。だが時の日本の国情から帰国を命じられてやむなく中退している。目賀田は米国留学生一行のお目付役として２度目の訪米となった。予科を受けずに入学を許され、初めて同校で学位を得た日本人が小村さんだった。卒業後も大学で得た知識を活かしてニューヨークの一流の法律事務所で２年間実務をこなして帰国している。（明治13（1880）年）

幕末に締結した諸外国との不平等条約の解消が日本の国是で、切実な問題だった。外国語での交渉や、法律的な知識は条約改正には必要不可欠だ。憲法も民法も明文化されていないし、国力も未だよちよち歩きの赤ちゃんに均しい。小村さんは卓越した英語力を発揮できる能力を備え、加えて西洋の法律も実務を交えて習得している。「鬼に金棒」。正に日本が真に求めていた秀逸で稀有な人材になっていた。

次項へ続く▶▶▶

ここ迄は、文字通りエリート街道まっしぐらと言えるだろう。
帰国後の小村さんは司法省に入省、翌年結婚した。その次の年に父の経営する郷里の飫肥商社が破産。次の年に長男が誕生した。そしてこれから、あの有名な大貧乏時代に突入して行く。父の負債が連帯保証人の小村さん一人に背負わされたからだ。
この頃、外務省に転じているが、仕事は閑職と言われた翻訳局での勤務となった。エリート中のトップの頭脳がヒマな仕事を強いられた。いささか不謹慎に聞こえるかも知れないが、私は小村さんの超ビンボー時代、雌伏の 10 年が大好きである。他人事だからでは断じて無い。まるで映画や小説のような展開で、並みの人間なら多額の借金で押し潰されてしまう所、ここから大臣にまでなって大仕事を次々とやり遂げるからである。小村さんが明治維新の薩長土肥等の雄藩出身者だったら、私は共感する所が少ない。

喰うのにも困る経済状態での翻訳局勤務の中、明治元年に発布された「五箇条の御誓文」を英文に訳して書いた文章が、当時の外相の青木周蔵の目に留まり、「これを書いたのは誰だ！」と驚き、直接小村さんを訪ねて来たという。

おそらく、小村さんの英訳文が青木外相の英語力を凌駕する表現力だったからと推測される。驚きと敬意に近いものを感じたかも知れない。

その後、外相が陸奥宗光に代わり、遂に小村さんを陸奥が知る日が来た。ある日、官邸にてロンドンに赴任する者の送別会が催されたが、その席で一座の話が貿易の事となり、英国の綿製品の事、紡績論へと拡がったところで陸奥が一同に「raw cotton」の意味を尋ねた。が、誰一人として答えを持って無かった。そこに小村さんが交り、原綿の産額から輸出入の消長、そして各種の綿花の良し悪しなど、まるで専門家の様に語り、挙げ句に「raw cotton」の意味を答えた。陸奥外相の取巻を初め、外務省の要職にいるエリートが勢揃いの中で唯一、小村さんだけが知っていた。廻りの同僚は驚き、陸奥も興味を持ち「君はどうしてそんなに小さいことまで詳しいのか？」と問われて「詳しいのは小さいことだけではありません。国家の大事についても多少の抱負はあります」と答えて、いつものように大笑いした。翻訳局でくすぶっていた訳ではなかった。怠ってもいなかった紡績に関しても翻訳していて優れた記憶力で覚えていた事が活かされた訳だが、強烈に、鮮やかに陸奥外相の脳裏に小村さんが焼き付けられた事だろう。その後の人事で、陸奥外相から清国代理公使を任じられた。大抜擢だった。小村さんの借金の件で反対もあったが、陸奥外相直接の推薦で押し切られた。英語に通じる者でも素通りしてしまうような些細な単語でも、その意味する事まで学ぶ探究心が、英単語一つが、長い極貧生活から救い出した。清国公使も初めは閑職だった為、清国研究に励む事が出来たが、後に清国とは戦争になるが、その前に地固めとして列強国の出方を見極める事が仕事になり、多忙を極めるようになった。何度も各国公使と交流を持ち、情報収集の為に走り廻るさまをある新聞記者が「Rat Minister 」（ネズミ公使）と称した。その働きっぷりに敬意を込めて付けられた愛称で、決して風貌を指すものではない。英国の北京公使のオコナーは「英文は巧み、吾々のように考える事ができる。英人以外にみたことがない」と記している。地位も知識もある英国公使が小村さんを英国人に引けを取らない語学力、思考力を持っていると評価している。外交官デビューは最高評価と言えるだろう。

さて、これ以降が小村さん本格的活躍、実質的な小村外交となるのですが、本題は小村さんの英語についてであるので、ここ迄とします。もし、躊躇して長崎行きをためらう小村さんを小倉処平が飫肥から連れ出さなかったら……ただの小村さんで終わっていたかも知れません。小村さんは頭が良いから、英語くらいの習得は出来るでしょう、と考えることなかれ。当時でも英語が読めて話せる人は多くいましたが、小村さん程の大仕事が出来たでしょうか？人並み外れた、桁違いの努力も勿論の事、決意と使命感、志がなければこれほどまでも英語を究めれなかったと思います。

今年の 12 月で小村寿太郎東京奉賛会は創会 10 周年です。10 年を機に大きく舵を切り法人格を持とうと計画しております。そして新事業として、日南市在住の学生さんに、米国への短期ホームステイを提供する企画を計画中です。これから羽ばたいて社会に飛び立とうとする若者に、何かしらの一助になればと願います。小村さんの墓地清掃や過去の偉業、功績の勉強会に加えて、新たに今度は、未来の若者の為も活動をする事になります。会員の皆様のより多くの助力が必要となります。新事業の応援をお願い申し上げます。

小村寿太郎侯についての想い

幹事　林　恵子

皆さま、コロナ禍が続いてますが、お変わりないですか？

この度は、小村寿太郎侯について投稿させていただく事になりました。私には難しいテーマであり、 歴史に乏しい私が書くのは、恥ずかしい限りでしたが、数年前、当会の勉強会や先輩方から学ぶなか、驚きや感動が多くありました。それで、今の自分なりの想いを書く事にチャレンジしました。

最初の驚きが、彼は 160 年以上も前の生まれですが、14 歳頃にほぼ自力で英語力を身に付けると言う事への、シンプルな驚きでした。テレビもネットも参考書すら無い時代でした。私たちの多くは、中・高の６年間も授業を受けてますが、それでも英会話や文章を書けたりは、なかなか出来てません。15 歳からは大学でも学んだにしろ、すごいと思います。更に、1874 年、18 歳の時に英語による自叙伝を書いていました。その英文が海外でも高い評価を受けて、大学図書館に保管されてると知り、本当に凄いなあと驚くばかりでした。

小村寿太郎侯は、時代が揺れ動く幕末 1855 年に日南飫肥に生まれ、そこから中央に出て大学へ行き、外交の場で業績を残す事になりますが、あの時代に日本の片隅から中央に出て大学に入る事だけでも大変な事だと感動します。確かにそのきっかけを作り後押ししてくれた方の存在もありましたが、それも彼が幼少期から優秀であった事と人間性が、そうさせたのだろうと感じてます。彼は、小倉処平の後押しで、15 歳の時に今の東京大学（南校）に入学して、その後 1875 年２０歳で文部省初留学生としてニューヨーク、ハーバード大学に入学、ともても優秀だった事も伝わります。

卒業後、ニューヨークの法律事務所に勤めて、1880 年 25 歳の時に帰国し、司法省に入ります。

そして政治家・外交官としての活躍が始まりますが、それはまさに彼自身の力です。４年後、外務省へ転じ、ここで 10 年近い下積みとなりますが、日本は 1860 年代も、内乱の他にフランス、ロシア、イギリスなどからも圧力を受け、ドイツは北海道を植民地化する準備をしたりと、世界的にも危うい立ち位置のようでした。外務省時代の 1880 年代もまだまだ世界はとても不安定な情勢です。

個人的な見解ですが、小村さんは逆にこの下積期間に、世界情勢や各国の思惑などを把握し尽くす事で、その後の外交官としての活躍にも繋げて行ったのだなと考えたりします。そんな中でも、あの独特なロシアとの交渉は、苦戦したとは言え、交渉を成し得たのは、凄いなと考えます。ただ、このポーツマス条約では、多くの批判も受けてます。時代的にマインドコントロールに落ちてそうな国民が、詳細を知り得るメディアも無い中では、仕方無い事だったかもしれません。とても残念です。小村寿太郎は他にも多くの条約等を結び、日本を救います。

今また、とても不安定な世界状況となってますが、最近の政治家たちが、私には私利私欲や派閥争い、選挙の根まわしなどばかりに熱心で、とても頼りなく映ってしまいます。

どこかに現代の小村寿太郎さんが居ないものかと思ったりしてます。今年は日々の気温差が大きく、寒暖差疲労があるようです。皆さまどうぞお身体ご自愛ください。

新刊紹介

近代史の教訓

著者　中西　輝政

第六章、第十一章及び第十二章に小村侯に関する記事が掲載されております。

小村さんと日清戦争、朝鮮（李朝）との関係

（イザベラ・ビショップの朝鮮紀行を参考として）

監事　石 﨑　國 雄

小村さんは 1,893 年、陸奥宗光の命により、清国の臨時代理公使として外交官デビューを果たします。当時、決してエリートコースとは言えなかった清国行をまじかに控え、「日本には、まだ外交はないのだ。真の外交はこれから起こってくるのだ」との言葉を残して赴任しています。ところが、翌 1,894 年には、僅か 9 ヶ月の着任期間で、清国との政情不安に伴い帰国、外務省･政務局長となります。

ところで、当時の朝鮮（李朝）は、いまだ清国の冊封体制下にありました。

清国との冊封体制は、明朝時代 1,392 年以降、「大韓帝国」になるまで、505 年余続きます。当時の、朝鮮は 26 代高宗の妃、閔妃一族が権力を掌握していました。

朝鮮の王族以外は、両班と称される官僚機構があり、貴族階級に相当する制度が続いていました。それらの特権階級以外には、賤民（奴婢、白丁）と称する下層の身分階級がありました。

この身分階級は、厳然としたものであり、国の発展を阻害する何物でもなかった。

その様な時代背景の中で、当時、朝鮮を旅行したイギリス人・紀行作家のイザベラ・ビショップ女氏の「朝鮮紀行」は、李朝当時の生活環境等を 3 年余の歳月をかけ、詳細にわたり記録されています。

著者のまえがきより、、、その一部を紹介します。

1894 年 1 月から 1897 年 3 月にかけ、わたしはモンゴロイドの特性調査の一環として四度にわたる朝鮮紀行を行った。最初の旅行で受けた印象は、これほど興味をそそらない国はないというものであったが、日清戦争の戦中戦後にかけては、その政治不安、急速な変化、今後の見通しといった点からつよく関心をかきたてられた。

また一方では、シベリアで見たロシア統治下の朝鮮人の性格と勤勉さは、朝鮮本国の将来には考えていたより良い可能性がまっているのかもしれないと教えてくれた。朝鮮という国は着いた当初はだれしも嫌悪感をいだくが、それを乗り越えるほど長く滞在すると、例外なく心をつかれまれてしまう、、、。と記されています。

そして著書は、朝鮮紀行の最終・第 37 章において、最後にとして次のような説明を加えている。

朝鮮は必ずしも貧国ではない、資源は開発されていないのであって、空っぽになったというわけではない。農業を充実させ得る能力もほとんど活用されていない。気候は素晴らしく、降雨は豊富で、土壌は生産性が高い。内陸部には石炭、鉄、銅、鉛、金の鉱脈がある。国土に住んでいるのは身体壮建で親切な人々で、乞食という階層はない。

その一方で、国民のエネルギーは眠ったままである。上流階級は愚か極まりない社会的義務に縛られ、無為に人生を送っている。中流階級には出世の道が開かれていない。エネルギーを振り向けられる特殊技能職がまったくないのである。下層階級はオオカミから戸口を守るのに必要なだけの労働しかせず、それには十二分な理由がある、首都ソウルにおいてすら、最大の商業施設も商店というレベルには達していない。

階級による特権、貴族と官僚による搾取、司法の完全なる不在、労働と少しも比例しない収入の不安定さ、いまだ改革を知らない東洋諸国の政府が拠りどころとする最悪の因習を繰り返してきた政府、策略をめぐらす泥棒官僚、最も腐敗した帝国との緊密な同盟関係、こういったものがこぞって力を存分に発揮し、朝鮮を私が第一印象としていだいたような資源などなにもなく、うんざりするほど汚らしい状態にまで落ちぶれさせたのである。（両班制度の最悪の結果を指摘している）

それでは、新しい国づくりを行うには、教育、生産階級の保護、不正官僚の処罰、全官職に労働試験を課し、職務の出来高に対し給与を支給することが必要である。その為には、有能な外国の監督のもとに国政改革が行われれば望みなしではない。大蔵省でこの一年間に遂行された結果を見ればわかる。、、、として、マクレブ・ブラウン財政顧問の奮闘とその改善結果（1,897 年）を紹介、記述している。

宗主国中国の影響のもとに、朝鮮の両班たちは貴族社会の全体的風潮である搾取ち暴政をこれまで事実上ほしいままにしてきた。この点について日本は新しい理論を導入し、庶民にも権利はあり、各階級はそれを尊ばなければならないということを一般大衆に理解させ、無料新聞も同じ路線をとった。朝鮮の農民には、日本と西洋の指導手段を通して、食いものにされるばかりが自分たちの運命ではない、自分たちも市民としての権利を持ち、法的見地から見た平等に値し、収入を守られるべき存在なのだということが徐々にわかり始めてきたのである。、、、と述べている。

最後に、、、著者はこうも記述している。わたしは日本が徹頭徹尾誠意をもって奮闘したと信ずる。経験が未熟で、住々にして荒っぽく、臨機応変の才に欠けたため買わなくともいい反感を買ってしまったとはいえ、日本には朝鮮を隷属させる意図はさらさらなく、朝鮮の保護者としての、自立の保証人としての役割を果たそうとしたのだと信じる。、、、

『外国人・紀行作家　イザベラ・ビショップの「朝鮮紀行」より。』

次項へ続く▶▶▶

◀◀◀前項より

著者は、来朝の際の現実に途方もない失望を抱き、「これほど興味をそそらない国はない」と述べている。それが、3年余経過後の帰国の際には、上記のとおり「日本には朝鮮を隷属させる意図はさらさらなく、、、朝鮮の保護者としての、、、自立の保証人としての、、、自立の保証人としての役割を、、、」と記述し、日本が朝鮮の保護国として役割を果たすことへの理解を示し、紀行分を結んで帰国されている。当時の日本の政策は、欧米列強の政策とは違い、日本の予算を朝鮮に投入し、朝鮮もともに独立国として発展することにより、ロシア、清国（中華民国）からの影響を阻止しようとしている事に理解を示している。小村さんは1,894年の北京からの帰国後は外務省政務局長の職にありました。日清戦争は1,895年4月17日に下関条約が締結され、終戦となっていました。その後、朝鮮においては26代国王・高宗の妃である閔妃殺害事件（乙未事変）が、1,895年10月8日に発生しています。高宗の父大院君との両派の争いと言われていますが、明確な結論は出されていません。小村さんは事件の後始末にあたって京城に派遣されます。困難な事件の解明はもちろんの事、事件の終息に奔走されました。その後、三浦公使には免官処分が下されますが、小村さんはその後任者となつています。

小村さんの、激動する外交官としての2年が経ちました。

「小村寿太郎侯東京奉賛会」の社団化について

監事　石崎　國雄

冬枯れの季節を迎えました。

小村寿太郎侯東京奉賛会会員の皆々様、いかがお過ごしでしょうか。

3年にわたるコロナ禍の影響は、皆様の日常にも大きな影響を及ぼしたこととご拝察いたします。

日頃は小村会の活動に、多大なご理解とご支援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

ところで、小村会も平成24年12月12日の発足以来、はや10年の歳月が経過しようとしております。その間、会活動も大勢の会員の皆様のご協力を戴き、活発にそして楽しく運営させていただきました。

日南市の小村会との連携事業、東京・青山墓地のご案内板の設置等々、活動は順調な経過を辿って参りましたが、コロナの影響は私どもの活動を阻害してしまいました。

また、会員の皆様方の高齢化が進むとともに、結果として退会されます会員が多数にのぼり、発足当時の190名の会員が、現在は120名足らずとなっております。

新規の会員の加入は、残念ながら結果として進んでおりません。

そこで、本年度の事業計画にも入れてあります「小村会の社団法人化」を促進することと致しました。幸い会員の中から特別に経済的支援を賜ることが出来まして、法人設立費用、情報提供の一環としてのホームページの開設費用に活用し、これをもととして、若い会員の新規獲得に全力を傾注して参ることとします。

また、社団法人化することにより、会の透明性の確保、信頼性の醸成に努め、広く一般社会への小村侯の偉業の顕彰と啓発活動について、より一層精力的取り組んでまいります。

会員募集

小村寿太郎侯東京奉賛会は、会員募集をしております。
ご興味のある方は、ページ下部までご連絡ください。

小村寿太郎侯東京奉賛会
〒130-0021　東京都墨田区緑3-9-3　電話　03-3846-9030　FAX　03-6659-3084
E-mail:kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp　振込先：ゆうちょ銀行　店番 008 普通預金口座 1191854　名義　小村寿太郎侯東京奉賛会
発行：小村寿太郎侯東京奉賛会　発行日：令和4年12月　発行責任者：金丸博司